

第 14 章 企業の資金調達の概要 (431p~457p)

2014 年 7 月 9 日

担当：渡辺

14.1 企業の資金調達パターン

- 企業の資金調達をする上での二つの決断
 - ①どの程度利益を再投資に回すのか
 - ②どの程度株式以外で借入れをするか

- 内部利益でまかなうことも可能
→新規株式発行のコスト回避、利益に対する負のシグナルの発信の回避

- 負債比率が高いということは
 - 負債が多ければ当然、景気が悪化すれば財務上の困難に陥りやすい
 - 適切なリスク管理の手法の登場により、より多くの負債を持てるように
 - 負債にはリスクもあるがメリットも**

14.2 普通株式

投資家によって保有されている株式を発行済流通株式、企業の金庫に保有される金庫株を発行済自己株式と呼ぶ。

- 株式を持つ=企業を所有する
 - 株主は会社のキャッシュフローに対する権利を持っている。
 - 企業の債権者は、一部キャッシュフローへの権利において株主に優先する。
→この優先は企業の行動決定においても生じる。

- 投票手続と投票の価値
 - 投票には単純多数決投票制度、累積投票、加重多数決などがあり、時には取締役会が外部と支配権を巡って争う、委任状合戦が行われる。

 - 株主の持つ企業の支配権とは、一般には投票権に限定される。
→複数議決権付き株式において、議決権に対するプレミアムが生まれる。
また、少数株主は大株主の食べ物にされる(トンネリング)。 Ex)逆株式分割
 - その他の類似の証券
パートナーシップ、信託・REIT、優先株式

14.3 負債

企業は定期的な利子の支払いと元本の償還を条件に、資金を借り入れる契約を結ぶことができる。しかしこの契約は限定的な側面もある。

➤ 様々な形を持つ負債

状況に合わせ、企業は負債の形態を自由に選択することができる。

- ①長期借入によるべきか、短期借入によるべきか。
 - ②負債は固定金利によるべきか、変動金利によるべきか。
 - ③借入れはドルによるべきか、その他の通貨によるべきか。
 - ④貸し手に対して、どのようなことを約束すればよいか。
 - ⑤普通社債を発行すべきか、転換社債を発行すべきか。
- また、自由にデザインすることすらも可能。

14.4 金融市場と金融機関

様々な投資家が様々な目的で金融資産の取引を行っており、中でも大口の債権者である金融機関は経済上の重要な役割を果たしている。

➤ 金融機関の果たす役割

・決済メカニズム

キャッシュの迅速なやりとりを可能に。

・借り入れと貸付

消費選好の調整、投資の最適化を促す。

・リスクのプール

企業のリスクを分散させる。

金融市場や金融機関の果たす基本的な機能は不変であるが、それを達成するための手段は常に変化している。

【コメント】

- どのような負債の調達方法が投資家に正・負のシグナルを送るのか。
- 投資家は企業の持つ負債を正しく評価できるのか。
- 良くも悪くも、負債発行よりもエクティ・ファイナンスの方を投資家は評価するのではないか。